

転校生とわたし

5年 物語文 7番

名前

四月、わたしのクラスに、転校生がやって来た。名前は、あおいさん。都会の学校から引っこしてきたという。あいさつのとき、あおいさんは、少しうつむいたまま、小さな声で名前を言った。その横顔は、どこかきちょうしているように見えた。新しい教室、知らない顔ばかりの中で、心細いのだろう。わたしにも、そんな時のきおくが、たしかにあった。

休み時間になっても、あおいさんは、自分の席から動かなかった。まわりの子は、もう新しい友だちと、明るく笑い合っている。わたしは、あおいさんに声をかけた。いきなり、（きらわれたら、どうしよう。）という気持ちとの間で、ずっとまよっていた。けっきょく、その日は、一言も話しかけることができなかった。

次の日の昼休み、わたしは、図書室で一さつの本を手にとった。すると、すぐとなりに、あおいさんがいた。おどろいたことに、あおいさんの手にも、わたしと同じ本があったのだ。二人の目が、ぱっと合った。おねが、どきどきと鳴る。ことわられたら、明日から気まずくなるかもしれない。それでも、わたしは、このきかいをのがしたくなかった。思い切って、言ってみた。「その本、わたしも好き。」あおいさんの顔が、ぱあっと明るくなった。「ほんとう。わたし、この作者の本、全部読んだんだ。」

それをきっかけに、わたしたちは、たくさん話すようになった。好きな場面の話をする、あおいさんは、身をのり出して、うれしそうにうなづく。話してみると、あおいさんは、本のことになると目をかがやかせる、とても話し好きな人だった。はじめの、しずかでこわそうな印象は、ただ、きんちょうしていただけだったのだ。

あのとき、ゆうきを出して声をかけて、本当によかったと思う。人は、見た目や、さいしょの印象だけではわからない。自分から一歩ふみ出して、心を開けば、思いがけないつながりが生まれる。あおいさんは、今は、わたしの、いちばんの親友だ。

(1) あいさつのときのあおいさんの様子から、あおいさんはどんな気持ちだったと考えられますか。書きましよう。

(2) 休み時間に、「わたし」が「まよっていた」のは、どんな気持ちとどんな気持ちの間ででしたか。文章の言葉を使って書きましよう。

(3) 「わたし」とあおいさんが、たくさん話すようになったきっかけは何ですか。文章から読み取って書きましよう。

(4) 話してみて分かった、あおいさんの本当の人物像として、正しいものを一つ選びましよう。

アイ本のことになると目をかがやかせる、話し好きな人
ウ 都会のことをじまんする、気の強い人
エ だれとでも、すぐに仲よくなれる人

(5) この物語を通して、「わたし」が学んだことは何ですか。文章の言葉を使って書きましよう。

(6) あなたが、この「わたし」のように、ゆうきを出して行動してよかったと思った経験を書きましよう。

例えば

「はずかしかったけれど、思い切って声をかけたら、仲よくなれた。」

「ことわられるのがこわかったが、勇気を出して、本当によかった。」

転校生とわたし

解答

5年 物語文 7番

名前

四月、わたしのクラスに、転校生がやって来た。名前は、あおいさん。都会の学校から引っこしてきたという。あいさつのとき、あおいさんは、少しうつむいたまま、小さな声で名前を言った。その横顔は、どこかきちょうしているように見えた。新しい教室、知らない顔ばかりの中で、心細いのだろう。わたしにも、そんな時のきおくが、たしかにあった。

休み時間になっても、あおいさんは、自分の席から動かなかった。まわりの子は、もう新しい友だちと、明るく笑い合っている。わたしは、あおいさんに声をかけた。いきなり、（きらわれたら、どうしよう。）という気持ちとの間で、ずっとまよっていた。けっきょく、その日は、一言も話しかけることができなかった。

次の日の昼休み、わたしは、図書室で一さつの本を手にとった。すると、すぐなりに、あおいさんがいた。おどろいたことに、あおいさんの手にも、わたしと同じ本があったのだ。二人の目が、ぱっと合った。おねが、どきどきと鳴る。ことわられたら、明日から気まずくなるかもしれない。それでも、わたしは、このきかいをのがしたくなかった。思い切って、言ってみた。「その本、わたしも好き。」あおいさんの顔が、ぱあっと明るくなった。「ほんとう。わたし、この作者の本、全部読んだんだ。」

それをきっかけに、わたしたちは、たくさん話すようになった。好きな場面の話をする、あおいさんは、身をのり出して、うれしそうにならず。話してみると、あおいさんは、本のことになると目をかがやかせる、とても話し好きな人だった。はじめの、しずかでこわそうな印象は、ただ、きんちょうしていただけだったのだ。

あのとき、ゆうきを出して声をかけて、本当によかったと思う。人は、見た目や、さいしよの印象だけでは分からない。自分から一歩ふみ出して、心を開けば、思いがけないつながりが生まれる。あおいさんは、今は、わたしの、いちばんの親友だ。

(1) あいさつのときのあおいさんの様子から、あおいさんはどんな気持ちだったと考えられますか。書きましよう。

(例) 知らない人ばかりの中で、きんちょうし、心細く感じていた気持ち。

(2) 休み時間に、「わたし」が「まよっていた」のは、どんな気持ちとどんな気持ちの間ででしたか。文章の言葉を使って書きましよう。

(例) あおいさんに声をかけたい気持ちと、「きらわれたらどうしよう」という気持ちとの間。

(3) 「わたし」とあおいさんが、たくさん話すようになったきっかけは何ですか。文章から読み取って書きましよう。

(例) 図書室で、二人が同じ本を手に取り、「その本、わたしも好き」と声をかけたこと。

(4) 話してみて分かった、あおいさんの本当の人物像として、正しいものを一つ選びましよう。

ア いつもしずかで、人と話すのが苦手な人

イ 本のことになると目をかがやかせる、話し好きな人

ウ 都会のことをじまんする、気の強い人
エ だれとでも、すぐに仲よくなれる人

(5) この物語を通して、「わたし」が学んだことは何ですか。文章の言葉を使って書きましよう。

(例) 人は、見た目やさいしよの印象だけでは分からない。自分から一歩ふみ出して心を開けば、思いがけないつながりが生まれる、ということ。

(6) あなたが、この「わたし」のように、ゆうきを出して行動してよかったと思った経験を書きましよう。

(例) はずかしかったけれど、思い切って係活動に立ちこほしたら、新しい友だちができた。

例えば

「はずかしかったけれど、思い切って声をかけたら、仲よくなれた。」

「ことわられるのがこわかったが、勇気を出して、本当によかった。」

問1 （例）知らない人ばかりの中で、きんちょうし、心細く感じている気持ち。

「うつむいたまま、小さな声で」「きんちょうしているように見えた」「心細いのだろう」から読み取ります。

問2 （例）あおいさんに声をかけたい気持ちと、「きらわれたらどうしよう」という気持ちとの間。

二つ目の段落に、二つの気持ちの間でまよう様子が書かれています。両方の気持ちを書けていれば正かいです。

問3 （例）図書室で、二人が同じ本を手に取り、「その本、わたしも好き」と声をかけたこと。

三つ目の段落の、図書室での出来事がきっかけです。同じ本・声かけの二点を書けているとよいです。

問4 イ

四つ目の段落に「本のことになると目をかがやかせる、とても話し好きな人」とあります。はじめの印象は、きんちょうによるものでした。

問5 （例）人は、見た目やさいしょの印象だけでは分らない。自分から一歩ふみ出して心を開けば、思いがけないつながりが生まれる、ということ。

最後の段落の、筆者の考えの部分をまとめます。

問6 （例）はずかしかったけれど、思い切って係活動に立こうほしたら、新しい友だちができた。

自分から行動してよかったと思える経験が、具体的に書けていれば正かいです。